

第11回学術集会報告

第11回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 伊藤 修

東北医科薬科大学医学部リハビリテーション学 教授

2021年3月20日と21日に第11回学術集会を開催いたしました。東日本大震災から10年目となった早春のみのちのく仙台に皆さまを是非お迎えしたいと現地開催を模索しましたが、収束しない新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、完全WEB開催することになりました。首都圏の1都3県と宮城県・仙台市の緊急事態宣言発令下での開催にご理解、ご参加いただきました皆様には心より御礼申し上げます。

今回の学術集会は、「エビデンス構築と多職種協働の推進」と題しました。CKD重症化予防や合併するサルコペニア・フレイルへの対策では、日常生活指導、栄養療法、薬物療法、腎代替療法を包括的医療として提供する多職種協働や腎臓リハビリテーションのエビデンス構築が不可欠です。コロナ禍の厳しい状況の中での開催でしたが、おかげさまで1170名の方にご参加いただきました。発表演題も口演121、理事長・会長講演、特別講演2、シンポジウム9、関連学会とのジョイントシンポジウム6（日本腎臓学会・日本透析医学会、心臓リハビリテーション学会、日本リハビリテーション医学会、日本腎不全看護学会、日本フットケア・足

病医学会、日本小児腎臓学会・日本臨床腎移植学会）、多職種講師による教育講演13とよく分かるシリーズ18に加えて、特別企画2、若手活性化関連企画、YIAセッションと多岐にわたる内容になりました。また、新しい試みとして国際腎臓リハビリテーション学会 第1回学術集会も同時開催し、日本全国のみならず、米国、欧州、中国、韓国からもご参加いただきました。収録プログラムを1ヶ月以上にわたりオンデマンド配信し、ライブ配信では視聴できなかったプログラムや再度視聴したいプログラムをゆっくりにお楽しみいただけましたことと思います。

会員懇親会などが出来なかったことは残念ではありますが、毎年の学術集会を今回中止することなく開催できたことは有意義であったと思っております。最後に、学術集会開催の機会をいただいた学会役員の先生方、参加いただいた多職種の皆様、大会を支えて下さった演者やスタッフの皆様、心より感謝しております。今後、腎臓リハビリテーションの進歩と普及を願うとともに、本学会の益々の発展を祈念します。

